

## 今週のメニュー

## ■トピックス

◇広島セミナーを開催しました

## ■随想

◇2002年 レバノン旅行記(1)ーレバノンってどこにあるの?ー

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

## ■編集後記

## ■トピックス

## ◇広島セミナーを開催しました

3月23日(木) 広島YMCA国際文化センターにおいて、「省エネ義務化と工務店の歩む道」をテーマにしたセミナーを、(株)日本住宅新聞社主催、樹脂サッシ工業会ならびに弊協会の協賛で開催しました。広島地区は、北部は東北地区に匹敵する寒冷な気候であり、南部は夏には暑い気候ということで高断熱性能住宅への関心が高く、55名の参加をいただき、盛況のうちに終了いたしました。

COP21/パリ協定発効を踏まえた「日本の約束草案」では、2030年度のCO2排出量を2013年度比26%減の水準とすることが謳われていますが、家庭部門ではさらに厳しく39%の削減目標となっています。この目標達成に向け、2020年までに①省エネ基準の義務化、②新築公共建築でZEB<sup>注1</sup>実現、③標準的な新築建築でZEH<sup>注2</sup>実現、というロードマップが発表されています。一方で、健康面からも高断熱性能の住宅に対する要求は高まっています。今回参加された方の6割強が戸建て住宅を設計・施工する工務店関係者、1割強がリフォーム専門工務店関係者であり、高断熱性能住宅に対する樹脂窓の役割の重要性を再認識していただき、良い機会になりました。



以下、概要をご紹介します。

建築研究所の坂本理事長からは、まず熊本県益城町の地震と糸魚川の大火の衝撃的な被害の中で高性能住宅の被害程度の低さを、続いて、高断熱性能住宅を建築するためのガイドブックと断熱性能を計算するソフトが、中小工務店でも使いやすい形で建築研究所から提供されていることを紹介していただきました。省エネ基準達成には、使用する空調や給湯設備もエネルギー効率の高いものが必要で、これらにより補助金等の優遇処置を受けることができます。また表彰制度として「ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー」があり、この受賞者は大手ハウスメーカーではなく地方工務店が多いという、参加者を勇気づける話もありました。

九州大学の住吉准教授からは、まず、あと 80 年ほどで日本の人口が 5 千万人以下、高齢化率が 4 割を超えるというなかで、エネルギー自給率を高めていかなければならないが、エネルギー消費の 3 割を民生部門が占め、中でも暖房や給湯が占める割合が大きいことを紹介いただきました。続いて、室温で表せない体感温度の指標として PMV があり、これを適切に維持することを目標に、住宅と空調や給湯設備の省エネ設計を行う必要があること、などのご講演を頂きました。また、エレベーター周辺の見える位置に階段を配置すると、階段を利用する人が増えて省エネになるということ为例に、使用者の心理面を利用した省エネ設計についてもご講演いただきました。

パネルディスカッションは、日本住宅新聞社の茂泉社長をコーディネーターとして、「今後の省エネ性能を高める住宅づくりにむけて、工務店はどう取り組むべきか」をテーマに、パネラーとして坂本先生、住吉先生に、樹脂窓メーカーの YKKAP、エクセルシャノンが加わって、活発に意見交換が行われました。大手ハウスメーカーに地元工務店が対抗していくには、規格化された住宅よりも性能が良く安価に提供できる工夫をする。展示会などで ZEH を体験する機会をつくり、施主に実感してもらう。ZEH は当然のこととして、むく板の天井にするなど、工務店ならではの差別化を図る。などの意見がでました。一方で 2030 年には ZEH は当たり前のことになり「売り」ではなくなっているという指摘もありました。最後に「工務店が生き残るためには、高断熱住宅を理解し、法律改正や補助金の情報・高性能の新建材情報を収集して、研究を続ける必要がある」とまとめられました。

最後になりましたが、年度末のご多忙の中、ご参加を頂きました皆様に感謝申し上げます。

注1 ZEB（ネットゼロエネルギービルディング）

注2 ZEH（ネットゼロエネルギーハウス）

## ■ 随想

### ◇2002 年 レバノン旅行記（1）－レバノンってどこにあるの？－

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

新たに始まった「レバノン旅行記」、実は 2002 年に執筆をしたものです。

あれから 15 年が経過しましたが、その間、2005 年には当時のハリリー首相の爆弾テロによる暗殺と首相暗殺の実行犯と名指しされた、レバノン駐在シリア軍の撤退。

シリア軍の撤退と同時に始まったイスラエル軍によるレバノン侵攻（侵攻の 3 ヶ月後には、国連の停戦決議に従い撤退）。

イスラム過激組織、ヒズボラの台頭と内戦状態にある隣国シリアの影響などで、2008 年にはレバノン国内で大規模な武力衝突が起きるなど、国内というより、隣国の情勢に左右されて来たレバノン。

現在では、再び平和を取り戻しているとは言うものの、IS の国内潜入、シリアからの難民流入など、外的要因による問題が山積です。



レバノン 国旗

2017年現在、政情的にはかなり安定したとのこと。  
2002年のレバノン訪問、私にとっては2度目の訪問でした。  
レバノン、もう一度訪問をしたい国の一つです。

レバノン。人によって思い浮かべるイメージが大きく異なるかもしれませんね。  
多分、年齢の高い人の持つイメージから若い人の持つイメージ順に並べてみると

1. 中東のスイス
2. レバノン内戦
3. 日本赤軍
4. レバノンってどこにあるの？



[クリックで拡大](#)

一番多いのが2のレバノン内戦と3の日本赤軍かもしれません。

レバノンはフランスの植民地でしたが、他のフランス植民地のようにフランス政府が植民地全体を統治するのではなく、地元の有力者に自治権を与え、彼らを統治するという政策を進めました。

レバノン、中東にあることからイスラム教国であると思っておられる方が多いようですが、国民の約半数はキリスト教徒です。

フランスが「植民地政策をやめた」とレバノンから去り、独立国となった途端、イスラム教対キリスト教の覇権争いが始まり1970年の半ばから内戦に突入します。

そして、さらに話をややこしくしたのがお隣のイスラエル。

隣の国は内戦が始まり、めちゃくちゃなのだから、この混乱に紛れてレバノンに攻め入りイスラエルの領土にしちゃおう、とレバノンの首都ベイルートに侵攻してきたのが1982年。

このため、国内の宗教戦争とイスラエルの領土侵略が混ざり合い、誰が敵で、誰が見方なのか分からない状態に陥り、国連ですら手が出せない状態になりました。

イスラム教とキリスト教徒の内戦がこのまま続き、イスラエルに対するきちんとした対応が取れないとパレスチナと同じようにレバノンもイスラエルに占領されてしまうということで1989年、サウジアラビアの仲介の元、双方の和平が成立。

その後、国連を中心に、世界各国の強い非難の下、イスラエルもレバノン侵攻を諦め撤退、和平が成立しました。

ある意味、イスラエル侵攻がレバノン国内の宗教戦争を終結させたといえるかもしれませんが。

しかし、イスラエルはレバノンを自国のものにするのを諦めたわけではなく、今でもレバノンとイスラエルの国境線では軍事対立が続いており、国連軍による監視が続けられています。

(つづく)

次回は、(2) -2002年のレバノン-です。

## ■ 編集後記

桜の季節がやってきました。今年は靖国神社の標本木が全国で一番早く開花し東京の開花宣言が3月21日と最も早かったとのことですが、その後、冬のような日もあり満開になるまでの時間が平年より長く、どうやら今週が見頃となりそうです。地域にもよりますが、以前は桜と入学式はセットだったような気がしますが、近年は温暖化のためか入学式の頃には桜が散ってしまうことが多く、今年は満開の桜の下での入学式が多いのではないのでしょうか？（LR）

## ■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601    ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <http://www.vec.gr.jp>    ■ E-MAIL [info@vec.gr.jp](mailto:info@vec.gr.jp)